

## 市立奈良病院を受診された患者様へ

当院では下記の臨床試験を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	下大静脈フィルター留置時におけるフィルター誤留置予防のための静脈解剖の検討
当院の研究責任者	所 属：放射線科 責任者：穴井 洋
他の研究機関および各施設の研究責任者	無し
本研究の目的	<p>下大静脈フィルター（以下、IVCF）は深部静脈血栓発症時の危機的な肺動脈血栓塞栓症の予防に重要な役割を果たしています。そのため緊急的に挿入されることが多いのですが、まれにIVCF挿入時に下大静脈へ合流する性腺静脈や腎静脈などの周辺血管へ誤留置されることがあります。</p> <p>手技的に正しい手順を行うことで多くは予防できますが、誤留置される血管の走行によっては下大静脈と誤ってしまう可能性があります。しかし、これら誤留置される血管に関しての報告は少なく、また合流本数に関しての言及はあっても血管走行まで言及されたものはほぼありません。</p> <p>今回、当院で施行した腹部造影CTをもとに腎静脈や性腺静脈など下大静脈へ合流する血管の走行について後ろ向きに検討を行い、IVCF留置時に注意すべき血管変異について明らかにすることを目的とし、そしてIVCF留置前には通常施行される、肺動脈や下肢の血栓評価を行う造影CTを十分検討することがIVCFの誤留置を予防につながる可能性を評価します。</p>
調査データの該当期間	2019年1月～2022年2月
本研究の対象及び方法 (使用する試料等)	<p>1. 方法</p> <p>当院で腹部造影CT*を施行し、そのraw dataが残りデータ再構成が可能で、腎静脈の評価が可能な症例を対象とした。</p> <p>1) 年齢20歳以上</p> <p>2) 2019年1月より2022年1月まで、連続する400症例をめどに、最低200例で評価を行う。</p> <p># 体重によって適切に計算された造影剤量を投与された造影CT</p>

	<p>除外基準</p> <p>1) 腎など評価対象部位、周辺に病変を有し、静脈評価が困難な症例</p> <p>2) 腎をはじめとする後腹膜の手術後など腎静脈、その周囲に手術など人為的操作が加わった症例</p> <p>3) 腎機能不良などで造影剤を通常より減量して造影 CT を施行した症例</p> <p>4) 循環動態が不良で造影効果が十分でない症例</p> <p>5) 担当医が不相当と判断した症例</p> <p>2. 方法</p> <p>すでに施行された造影 CT をもとに後ろ向きに解析を行う。</p> <p>下記調査期間を設定し一定数の症例数を担保する。</p> <p>造影 CT のデータを、再構成し、3D データを含め解析を行う。</p> <p>腎静脈、性腺静脈を中心として下大静脈への合流パターン（本数、走行を中心に臓器の各部位からの解剖状況を把握する）その際に造影効果についての評価も行うものとし、患者の背景（年齢、性別、体重、背景など）についても併せて可能な限り評価する。</p>
試料・情報の他の機関への提供	無し
個人情報の取り扱い	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
本研究の資金源（利益相反）	本研究に関連し、開示すべき利益相反はありません。
お問い合わせ先	TEL : 0742-24-1251 担当者 :
備考	